

東日本大震災 地震発生時の報告と今後の対応

被災された皆様に対し、衷心よりお見舞い申し上げます。

震災に際しての学長メッセージ

エンジニアとして生きることを

学長 柳澤 章

この度の東日本大震災において、犠牲になられた方々のご冥福を心よりお祈りいたします。そして不自由、不安な日々が今なお続いている方々にお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を祈念いたします。

大学の学生諸君においては全員無事であります。しかし、本学学生のうち家計支持者が被災され、あるいは家屋の損壊、浸水、原子炉事故に伴う避難をされた方に、工友会および後援会から見舞金700万円が大学に寄付されました。ご寄付下さった皆様に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

東日本を襲ったこの大災害は、広範囲に影響を及ぼしています。例えば、直接の被災地ではない首都圏の在住者においても、相次ぐ余震や連日の震災報道などが心身の負担となって体調不良に悩まされる人もいます。もし、みなさんの中で辛い状態が続いているということがあれば、抱え込まず、

学生相談室に行つて相談をしてください。大学では、学生のメンタル・ケアの態勢を整えています。

被災地の復興に向けて、寄付やボランティアなど様々な支援活動が行われています。何か役に立ちたいと思っている諸君もいるでしょうし、すでに実行している学生もいるかもしれません。自分に何ができるのかを考えると、諸君が日々学んでいる工学を駆使した活動や日常生活においてできることも数多くあるでしょう。例えば、現地のニーズと支援のミスマッチが生じる中で、様々な情報ネットワークが生み出されています。被災地の産物を消費地で応援する活動、さらには首都圏での節電を促す活動を若者らしいアイデアで進めることもできるでしょう。

原子力発電所の爆発事故は、現代社会のエネルギー資源の在り方、科学技術、その運用の信頼性などを巡って日本のみならず世界中に大きな衝撃をもたらしました。

工学、工業技術の進化・発展、人の育成への貢献に本学のアイデンティティはあり、社会に対して本学が果たすべき役割は、今あらためて大きな課題を担ったというべきであります。同時に、実践力の養成を重視する本学の実工学教育による人材はますます社会からの期待が高まり、私たちはさらに研鑽を積み重ねなければならないといえます。

キャンパス環境において本学は太陽光エネルギーの活用を先進的に導入してきました。昨年度は、「エコ大学ランキング」の私立大学部門で第1位に選ばれました。また平成20年度から取り組んでいたNEDO「住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業」で使用エネルギー26%削減を達成し、関東東区電気使用合理化委員会より最優秀賞を受賞しました。技術を現場に活かす。このマインドを持って、社会の要請に応え、より人間性の高い社会を創造し得るエンジニアとなっていくことをめざしていきます。

願ひ（こ）を通じて学内に周知するとともに、教授会でも説明した。授業開始後は、個別対応で学生相談室を中心として心のケアをしていく。

地震発生時の対応

【帰宅難の学生支援】

3月11日（金）は、春季休業期間に入っており通常より学生はかなり少なかった。そのため大部分の学生は、自宅もしくは帰省先などキャンパス外にいたと思われる。このようなタイミングであったため、学生の安否確認は被災地域の帰省先が大部分であった。地震直後は、建物から避難してきた教職員、学生等をクラウンドにいったん集合させ、テレビ、ラジオを基にした地震関連情報を伝え、冷静に行動するように指示をした。その後、教職員の引率により学生は武道場へ避難させ、午後4時頃帰宅指示を行った。帰宅に当たって

は、東武伊勢崎線をはじめ線路点検等のため運休を決定した鉄道会社が統廃したため、帰宅困難な学生は、大学に宿泊可能である」旨を告げた。結果的に50名ほどの学生が合宿棟に泊まった。ライフラインは、電気水については被害がなかったが（このためパニックが少なかつたと思っている）、ガスは、緊急遮断弁による自動停止によりキャンパス全体で使用できない状態となった（全設置場所のガス漏れを確認し、当夜12時頃復旧）。一方、教職員はスチューデントセンターに避難。学長指示により各フロア

は、東武伊勢崎線をはじめ線路点検等のため運休を決定した鉄道会社が統廃したため、帰宅困難な学生は、大学に宿泊可能である」旨を告げた。結果的に50名ほどの学生が合宿棟に泊まった。ライフラインは、電気水については被害がなかったが（このためパニックが少なかつたと思っている）、ガスは、緊急遮断弁による自動停止によりキャンパス全体で使用できない状態となった（全設置場所のガス漏れを確認し、当夜12時頃復旧）。一方、教職員はスチューデントセンターに避難。学長指示により各フロア

は、東武伊勢崎線をはじめ線路点検等のため運休を決定した鉄道会社が統廃したため、帰宅困難な学生は、大学に宿泊可能である」旨を告げた。結果的に50名ほどの学生が合宿棟に泊まった。ライフラインは、電気水については被害がなかったが（このためパニックが少なかつたと思っている）、ガスは、緊急遮断弁による自動停止によりキャンパス全体で使用できない状態となった（全設置場所のガス漏れを確認し、当夜12時頃復旧）。一方、教職員はスチューデントセンターに避難。学長指示により各フロア

は、東武伊勢崎線をはじめ線路点検等のため運休を決定した鉄道会社が統廃したため、帰宅困難な学生は、大学に宿泊可能である」旨を告げた。結果的に50名ほどの学生が合宿棟に泊まった。ライフラインは、電気水については被害がなかったが（このためパニックが少なかつたと思っている）、ガスは、緊急遮断弁による自動停止によりキャンパス全体で使用できない状態となった（全設置場所のガス漏れを確認し、当夜12時頃復旧）。一方、教職員はスチューデントセンターに避難。学長指示により各フロア

は、東武伊勢崎線をはじめ線路点検等のため運休を決定した鉄道会社が統廃したため、帰宅困難な学生は、大学に宿泊可能である」旨を告げた。結果的に50名ほどの学生が合宿棟に泊まった。ライフラインは、電気水については被害がなかったが（このためパニックが少なかつたと思っている）、ガスは、緊急遮断弁による自動停止によりキャンパス全体で使用できない状態となった（全設置場所のガス漏れを確認し、当夜12時頃復旧）。一方、教職員はスチューデントセンターに避難。学長指示により各フロア

は、東武伊勢崎線をはじめ線路点検等のため運休を決定した鉄道会社が統廃したため、帰宅困難な学生は、大学に宿泊可能である」旨を告げた。結果的に50名ほどの学生が合宿棟に泊まった。ライフラインは、電気水については被害がなかったが（このためパニックが少なかつたと思っている）、ガスは、緊急遮断弁による自動停止によりキャンパス全体で使用できない状態となった（全設置場所のガス漏れを確認し、当夜12時頃復旧）。一方、教職員はスチューデントセンターに避難。学長指示により各フロア

は、東武伊勢崎線をはじめ線路点検等のため運休を決定した鉄道会社が統廃したため、帰宅困難な学生は、大学に宿泊可能である」旨を告げた。結果的に50名ほどの学生が合宿棟に泊まった。ライフラインは、電気水については被害がなかったが（このためパニックが少なかつたと思っている）、ガスは、緊急遮断弁による自動停止によりキャンパス全体で使用できない状態となった（全設置場所のガス漏れを確認し、当夜12時頃復旧）。一方、教職員はスチューデントセンターに避難。学長指示により各フロア

は、東武伊勢崎線をはじめ線路点検等のため運休を決定した鉄道会社が統廃したため、帰宅困難な学生は、大学に宿泊可能である」旨を告げた。結果的に50名ほどの学生が合宿棟に泊まった。ライフラインは、電気水については被害がなかったが（このためパニックが少なかつたと思っている）、ガスは、緊急遮断弁による自動停止によりキャンパス全体で使用できない状態となった（全設置場所のガス漏れを確認し、当夜12時頃復旧）。一方、教職員はスチューデントセンターに避難。学長指示により各フロア

は、東武伊勢崎線をはじめ線路点検等のため運休を決定した鉄道会社が統廃したため、帰宅困難な学生は、大学に宿泊可能である」旨を告げた。結果的に50名ほどの学生が合宿棟に泊まった。ライフラインは、電気水については被害がなかったが（このためパニックが少なかつたと思っている）、ガスは、緊急遮断弁による自動停止によりキャンパス全体で使用できない状態となった（全設置場所のガス漏れを確認し、当夜12時頃復旧）。一方、教職員はスチューデントセンターに避難。学長指示により各フロア

は、東武伊勢崎線をはじめ線路点検等のため運休を決定した鉄道会社が統廃したため、帰宅困難な学生は、大学に宿泊可能である」旨を告げた。結果的に50名ほどの学生が合宿棟に泊まった。ライフラインは、電気水については被害がなかったが（このためパニックが少なかつたと思っている）、ガスは、緊急遮断弁による自動停止によりキャンパス全体で使用できない状態となった（全設置場所のガス漏れを確認し、当夜12時頃復旧）。一方、教職員はスチューデントセンターに避難。学長指示により各フロア

は、東武伊勢崎線をはじめ線路点検等のため運休を決定した鉄道会社が統廃したため、帰宅困難な学生は、大学に宿泊可能である」旨を告げた。結果的に50名ほどの学生が合宿棟に泊まった。ライフラインは、電気水については被害がなかったが（このためパニックが少なかつたと思っている）、ガスは、緊急遮断弁による自動停止によりキャンパス全体で使用できない状態となった（全設置場所のガス漏れを確認し、当夜12時頃復旧）。一方、教職員はスチューデントセンターに避難。学長指示により各フロア

は、東武伊勢崎線をはじめ線路点検等のため運休を決定した鉄道会社が統廃したため、帰宅困難な学生は、大学に宿泊可能である」旨を告げた。結果的に50名ほどの学生が合宿棟に泊まった。ライフラインは、電気水については被害がなかったが（このためパニックが少なかつたと思っている）、ガスは、緊急遮断弁による自動停止によりキャンパス全体で使用できない状態となった（全設置場所のガス漏れを確認し、当夜12時頃復旧）。一方、教職員はスチューデントセンターに避難。学長指示により各フロア

は、東武伊勢崎線をはじめ線路点検等のため運休を決定した鉄道会社が統廃したため、帰宅困難な学生は、大学に宿泊可能である」旨を告げた。結果的に50名ほどの学生が合宿棟に泊まった。ライフラインは、電気水については被害がなかったが（このためパニックが少なかつたと思っている）、ガスは、緊急遮断弁による自動停止によりキャンパス全体で使用できない状態となった（全設置場所のガス漏れを確認し、当夜12時頃復旧）。一方、教職員はスチューデントセンターに避難。学長指示により各フロア

は、東武伊勢崎線をはじめ線路点検等のため運休を決定した鉄道会社が統廃したため、帰宅困難な学生は、大学に宿泊可能である」旨を告げた。結果的に50名ほどの学生が合宿棟に泊まった。ライフラインは、電気水については被害がなかったが（このためパニックが少なかつたと思っている）、ガスは、緊急遮断弁による自動停止によりキャンパス全体で使用できない状態となった（全設置場所のガス漏れを確認し、当夜12時頃復旧）。一方、教職員はスチューデントセンターに避難。学長指示により各フロア

は、東武伊勢崎線をはじめ線路点検等のため運休を決定した鉄道会社が統廃したため、帰宅困難な学生は、大学に宿泊可能である」旨を告げた。結果的に50名ほどの学生が合宿棟に泊まった。ライフラインは、電気水については被害がなかったが（このためパニックが少なかつたと思っている）、ガスは、緊急遮断弁による自動停止によりキャンパス全体で使用できない状態となった（全設置場所のガス漏れを確認し、当夜12時頃復旧）。一方、教職員はスチューデントセンターに避難。学長指示により各フロア

は、東武伊勢崎線をはじめ線路点検等のため運休を決定した鉄道会社が統廃したため、帰宅困難な学生は、大学に宿泊可能である」旨を告げた。結果的に50名ほどの学生が合宿棟に泊まった。ライフラインは、電気水については被害がなかったが（このためパニックが少なかつたと思っている）、ガスは、緊急遮断弁による自動停止によりキャンパス全体で使用できない状態となった（全設置場所のガス漏れを確認し、当夜12時頃復旧）。一方、教職員はスチューデントセンターに避難。学長指示により各フロア

学生の対応とボランティア活動

前述の通り、地震当日は春休み中ということでキャンパス内の学生は少なく、委員会やクラブ、研究室にて約200名が活動中であつた。帰宅困難者は合宿棟で宿泊するよう指示が出されたことを受け、この日合宿をしていた体育祭実行委員会、アメリカンフットボール部、学生環境推進委員会、学生支援課、後援会の各支部から確認をした。またアパートを賃貸した（株）NITクリエイトからの情報を統合して、ほとんどの被災状況はほぼ把握できた。

今回の大震災を契機・教訓として防災対策を見直し、充実していく。例えば、建物のさらなる耐震強化、全棟一斉の放送設備、一定数以上の食料・水・毛布の備蓄、電気・水道・ガスの供給停止対策のみならず防災に関連するソフト面での炊き出しを行った。こうした一連の対応は合



炊き出しを手伝う学生達(写真は宮代町より提供)

本年度の授業計画と行事予定

今般の東日本大震災を受けて、本学では以下のとおりに行事予定・授業計画を変更して対応している。まずは震災翌日に予定されていた昨年度の4年生を対象とした成績表配布を中止。また3月20日（日）に予定していた学位記授与式（卒業式）の式典は中止し、無理なく登校できる卒業生に、学位記の配布のみを行う。当日には、約8割の卒業生が学位記を受け取っている。

本年度に入ってから、周知のとおり、授業予定の全体を2週間遅らせ、4月3日予定の入学式を4月17日（日）に、当初2日間予定していたオリエンテーションを1日間に圧縮し、19日（火）からの授業開始としている。

また、体育祭・学生総会等の学生行事は当初予定のままだらない、今学期は8月1日（月）をもって全ての授業と試験が終了する予定である。

工友会と後援会から義援金を受領

学内からも被災した学生に対し支援が広まっている。工友会では、本学に500万円を寄付した。4月5日（火）、土井副会長、清水助手が柳澤学長のもとを訪れ、目録を贈呈した。また、後援会では4月10日（日）に開催された役員会・理事会で、小林会長から被災学生への支援のための緊急義援金があり全会一致により本学へ200万円を寄付することに決定した。

これらの寄付金は、生活支援や見舞金として被災学生に配付される。



工友会副会長から義援金を受領する柳澤学長

被災された本学入学者・在学生に対する経済支援

本学では被災をされた方への経済的支援の第一段階として、以下の対応を行っている。

■登校が可能となるまで新学期から1～2ヶ月を要する方への支援
学生納付金の内、入学金（新入生のみ）および授業料について減免の特別措置を講じ、経済的支援を実施する予定である。

特別措置の概略

被災状況	入学金（新入生のみ）	授業料
家計支持者の死亡等	全額免除	全額免除（春学期・秋学期）
家屋の流失・全壊・全焼	全額免除	全額免除（春学期のみ）
家屋の半壊・半焼	全額免除	半額免除（春学期のみ）
家屋の損傷等の罹災	全額免除	（免除措置なし）
原発事故による避難	全額免除	全額免除（春学期のみ）

※特別措置は2011年度のみ実施し、罹災（りさい）証明書等の内容に基づき支援を行う。

■登校まで新学期から半年、あるいはそれ以上の期間を要する方への支援
半年間の休学者に対する支援

区分	支援内容
春学期休学の場合（半年間休学）	●休学期間中の学費等を免除。 ●既納の入学金（新入生のみ）、春学期の授業料・施設設備拡充費・実験研究費・委託会費については、ご依頼に基づき返却。 ●休学期間中の在籍料（半年間75千円）を免除。
半年後に復学した場合（秋学期復学）	春学期休学者が秋学期に復学した場合には、前述の被災状況に応じた特別措置に基づき減免された学費等を納入していただく。

※特別措置は復学年度のみ実施し、罹災（りさい）証明書等の内容に基づき支援を行う。

・具体的手続きについては詳細が決まり次第、順次ホームページ等で告知。
・上記のほか、「日本学生支援機構 緊急・応急奨学金」等の奨学金の申請についての支援も行っている。

【連絡・お問い合わせ先】
学生支援部学生支援課 電話：0480-33-7508

TEL: 0120-250-267 E-mail: nyu-shi@nit.ac.jp
URL: www.nit.ac.jp 携帯URL: www.nit.ac.jp/k

鈴木清教授がIDAの 技術諮問委員に就任



ものづくり環境学科の鈴木清教授が2月、アメリカ工業用ダイヤモンド協会（IDA）の技術諮問委員に就任した。同委員会はダイヤモンド類とその応用に関する世界で唯一の国際会議INTERTECHを通じて、より発展させることを目的に設立された独立委員会であり、世界中から11人の学識経験者が選任されている。

同教授の研究室では、環境に優しい加工技術の開発

鈴木航君がダイヤモンドシソウムで優秀賞を受賞



機械工学専攻博士前期課程2年（受賞時）の鈴木航君（竹内研究室）が昨年11月18日、第24回ダイヤモンドシソウム優秀賞を受賞した。論文題目は「押込み試験機によるポロンドープダイヤモンド膜の付着力評価」。

佐々木大輔君が 優秀論文講演奨励賞を受賞



機械工学専攻博士前期課程1年（受賞時）の佐々木大輔君（野口研究室）が2月28日（月）、日本塑性加工学会の優秀論文講演奨励賞を受賞した。論文題目は「アルミナ微粒子高速噴射によるアルミニウム合金へのセラミック膜の形成」。



学業奨励奨学金受賞者（建築デザイン学群）と柳澤学長

大川陽康奨学金、学業奨励奨学金 受給対象者認定証授与式

5月9日（月）、情報工学科棟5階会議室において、大川陽康奨学金および学業奨励奨学金受給対象者の認定式が執り行われた。

認定式には、柳澤学長、成田教育推進室長、梅崎学生支援部長、吉見学生支援課長、及び本奨学金受給対象学生124名が出席した。本年度は大川陽康奨学金21名、エクセレント・スチューデント34名（2、3年生12名、4年生、各10名）、リマーカープル・スチューデント73名（2、3年生25名、4年生、各23名）が奨学金受給対象となっている。

認定式は18時30分より始まり、柳澤学長より「今年度の認定にあたり、本奨学金を受給する学生諸君は、学業はもちろんのこと、各行事等にも、是非、積極的に参加していただきたい」という訓辞の後、参加各学生には認定証が封入された盾が贈呈された。

平成22年度 学生支援部長賞 授与

4回目となった22年度の受賞対象者は、1団体と個人6名。震災の影響で表彰式が中止されたため、3月20日（日）の学位記配布の会場において、受賞者に表彰状と記念品が授与された。

平成22年度学生支援部長賞表彰者一覧

氏名又は団体名	学科	内容
谷 良太	情報	情報処理技術者試験（応用情報技術者）合格(4単位)
草間 信太郎	情報	マインドマップを用いた聴覚障害学生のための講義支援
中島 大輔	情報	同上
増田 殊大	システム	水中ロボコン2010inJAMSTECにてテクノオーシャンネットワーク賞を受賞
松下 一成	電気電子	東日本理工系大学競技選手権大会1位 全日本学生体操競技選手権大会に個人出場
田澤 佑樹	建築	国民体育大会アチェリー競技成年男子 8位入賞
アーチェリー部		関東学生理工系定期戦 優勝(3連覇)

バーの加工に不可欠なダイヤモンド工具の性能向上のための基礎研究において、こうした試験機のニーズは高く、大手工具メーカーとの共同研究も行っている。

論文題目は「押込み試験機によるポロンドープダイヤモンド膜の付着力評価」。

ダイヤモンド膜を工具に活用する際に必要となる、膜の付着力試験機を用いてポロンドープしたダイヤモンド膜と工具材との付着力が向上することを明らかにした。カーボンファイ

ルミナセラミック膜を形成することに成功したことが評価された。この研究により、セラミック膜の形成メ

カニズムを解明し、膜質を向上させることで、将来的には現行エンジンの軽量化、燃費向上、潤滑油削減に寄与することが期待される。

受賞に際し佐々木君は「講演発表から半年後に受賞を聞き、非常に驚いた。日々の研究の成果が評価された大変嬉しい。指導していただいた野口准教授をはじめ、研究室の仲間感謝している」と語っている。

第3回 3D-CADプロダクトデザインコンテスト

本コンテストは3次元CADを用いてデザインし、ものづくりの最先端技術を学ぶことができる。高校生なら誰でも参加でき、募集作品はテーマ部門「子供が乗る遊具」、自由デザイン部門「エコロジーに関する“おもしろいもの”」である。テーマ部門は、幼い子供が乗る遊具を考え、遊び方を提案して下さい。



第5回 マイクロロボコン高校生大会

来る9月10日（土）に、本学で第5回 マイクロロボコン高校生大会が開催される。本コンテストは、1インチ角のロボットが所定のコースを自立的に走行し、時間を競うもの。わずか1インチ角のロボット内に数十cmの大きさのロボットに匹敵する機能を持つ様に設計要求される。詳細のお問い合わせ、応募登録は下記ホームページにて。締め切りは8月28日（日）まで。
<http://ise.nit.ac.jp/mrc.html>



第25回 建築設計競技 五感に響く「いえ」

25回目を迎える建築を学ぶ高校生を対象とした日本工業大学建築設計競技の今年の課題は、「五感に響く「いえ」」。審査委員は、建築家の若松均氏（株式会社若松均建築設計事務所 主宰）、本学建築学科小川次郎教授、生活環境デザイン学科勝木祐仁准教授の3氏。締め切りは8月31日（水）。結果発表は9月末日。
<http://www3.nit.ac.jp/kenchiku>



高校生的な方を対象に作品を募集しています。

第13回 歴史的価値のある工作機械の顕彰

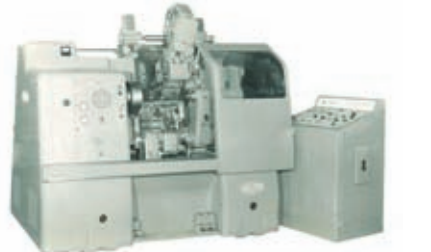
我が国のものづくりを支えた名機4機種を表彰



工業技術博物館
館長・客員教授
松野 建一

「歴史的価値のある工作機械を顕彰する会」（会長・守友貞雄理事、事務局・当博物館）による第13回顕彰機種種の表彰式が6月2日（木）に学友会館で行われる。多数の候補から厳正な審査を経て選ばれた4機種は、我が国で開発され経済成長を長年支えた、工作機械の歴史に残る名機であり、製造企業に顕彰権が贈呈される。今回で顕彰機種数は合計50となり、うち21機種が当博物館に展示され来館者の注目を集めている。

ロングライフ・ベストセラー賞



オークマ株式会社
自動サイクル旋盤LA形



株式会社和井田製作所
超硬バイト研削盤DW・31S形



株式会社牧野フライス製作所
三次元自動微いラム形立フライス盤DUシリーズ



シチズンマシナリーミヤノ株式会社
4軸自動旋盤MT4・B12形

「ロングライフ・ベストセラー賞」は「オークマ・自動サイクル旋盤LA形」（製造開始・昭和39年）微削り装置、タレット装置等を同一ベッ

ト研削盤DW・31S形（製造開始・昭和31年）1台のモータの両側にカップ形とストレート形の2種類のダイヤモンドホイールが取り付けられ、テーブル上に刃先分度器や自由な位置・方向に固定可能なマグネット式バイト保持具等が、誰でも簡単に使い、正確に超硬バイトの刃先等を研磨できるため、生産現場に必須の機械としてユーザに喜ばれた。シリーズとして10台以上の操作が可能で、多くの製造工場で採用された。約1100台販売（輸出約140台）がある。

「和井田製作所・超硬バイト研削盤DW・31S形（製造開始・昭和31年）1台のモータの両側にカップ形とストレート形の2種類のダイヤモンドホイールが取り付けられ、テーブル上に刃先分度器や自由な位置・方向に固定可能なマグネット式バイト保持具等が、誰でも簡単に使い、正確に超硬バイトの刃先等を研磨できるため、生産現場に必須の機械としてユーザに喜ばれた。シリーズとして10台以上の操作が可能で、多くの製造工場で採用された。約1100台販売（輸出約140台）がある。

「シチズンマシナリーミヤノ・4軸自動旋盤MT4・B12形」（製造開始・昭和44年）耐久消費財の部品の大量生産用として、中小企業から求められていた小スペースで安価な多軸自動盤を、海外メーカと提携を、海外メーカと提携せず独自技術で完成させたもの。他メーカの6軸機とは異なる独特の4軸で、随所に独自の技術的工夫がなされ、安全装置、調整の容易さにも配慮されている。独自技術での完成が評価され、中小企業向け自動化機械開発賞を受賞。392台の販売実績がある。

学内合同企業説明会実施報告と今年度の就職活動

2月の第1回学内合同企業説明会が終了し、学生にとってはこれからが本格的な就職活動と思っただ矢先、東日本大震災が発生、環境は大きく変化した。一部の企業は、採用活動を中止または日程の延期をするなど、学生にとって今後の活動に不安をもたらす要素が多く、この状況は深刻な問題を引き起こすのではないかと危惧している。

そのような中、本学においては4月21日～28日までの6日間にわたり、企業129社を招いて「第2回学内合同企業説明会」を実施した。授業開始が2週間程度遅れたこともあり事前の告知がやや不十分と考え、研究室教員や就職支援課から電話・メール等を駆使しての連絡徹底により、就職希望者の約6割の学生が参加し大盛況の中、終了することができた。



4月に学友会館で行われた学内合同企業説明会

環境マネジメント活動の推進

エコロジープレス第11号発行

本学の環境推進活動は11年目を迎える第4次の活動に入った。これまでの活動結果を踏まえ「環境教育のさらなる充実」「学生の環境改善活動との連携」「化学物質を含めた環境・安全の推進」「省エネ推進の積極的取組」の、4つの目標を掲げて活動している。



環境関連情報の発信媒体として毎年一回発行する「エコロジープレス第11号」では、充実した環境教育への取組や学生の活動報告等を掲載している。また、下記WEBサイトで第1号から閲覧が可能となっているので、ご覧いただきたい。

<http://www.nit.ac.jp/eco/ecopress.html>

募集 第6回 ビジネスプランコンテスト

学園創立100周年を記念してスタートした本コンテストも今年で6回目。建設的で実践的な社会人育成、企業家精神の醸成、起業家的資質を養う事を目的としている。昨年は上位入賞2組が日刊工業新聞社主催のキャンパスベンチャーグランプリにも応募し、全国大会で文部科学大臣賞などを獲得した。応募資格は本学学部生・院生。優れたビジネスプランの提案者には、研修費が贈られる。事前登録制でエントリーが必要。詳細はWEBサイトにて。

【エントリー期間】6月1日(水)～20日(月)
【プラン応募期間】7月11日(月)～30日(土)
【表彰式】11月4日(金)

<http://www.nit.ac.jp/center/cooperation/iu.html>

サウンドロゴ完成

このたび日本工業大学のサウンドロゴが近藤浩章氏の作曲で完成いたしました。サウンドロゴとは、音声により本学のイメージを伝えるロゴの新しい方法です。

詳細は下記 URL からどうぞ!

http://www.nit.ac.jp/campus/s_logo.html

町長と話してみませんか



みなさん、宮代町で生活をしていて、「もっとこうしたら住みやすいのに」「こんな視点でまちづくりを進めてほしい」という意見をお持ちでないでしょうか。町では、詳しくは、町のホームページ内「町長の部屋」をご覧ください。

に出向き、町政やまちづくりに対するご意見やご提案をお伺いする「まちづくりトーク」という機会を設けています。対象は、町内在住、在勤、在学のおおむね10人以上のグループです。学生ならではの視点と発想で、魅力あるまち「宮代」をつしよにつくっていきませんか。

編集後記

▼東京・文京区の【後楽園】は、元は水戸藩の上屋敷庭園である。その名の由来は「先憂後楽」つまり、憂いを先にし、楽しみを後にす、というものだ。▼水戸藩といえばテレビの人気長寿番組で知られる「水戸黄門」を、すぐに思い浮かべるはずだ。実は番組の主人公、水戸黄門・徳川光圀の言葉にもこれに近いものがある。

▼「苦は薬の種、薬は苦の種と知るべし」。がそれである。苦は薬の生みの親、であり薬は苦の生みの親なのだから、という意味だろう。その認識のもと、常に現在とは逆の状況を想定しつつ日々を送りたい、という語りかけられているようだ。▼そうすることにより、いざという段になっても、いたずらに周章狼狽せず、済みますよ、とも受け取れる言葉だ。同時に今の私たちが、教訓になっていることも興味深い。▼東日本大震災では地震・津波・原発などの被害に加え、風評被害なども甚大である。だが、だからこそ、先憂後楽の気持ちになることが、今こそ必要なのだろう。【信】

出前授業の紹介

日本工業大学の建学理念として進めている実工学の教育と工業高校で展開している「ものづくり教育」とが一心同体となって、工業教育の充実・発展を目指すために、工業高校と日本工業大学との連携を進めている。

平成19年11月、工業教育研究所内に高大連携プロジェクト室を設置し、「出前授業」「ものづくり教室」を主体とする教育活動を組織的・計画的に大学全体で取り組んでいく方針が決まった。そこで、本学への入学者の多い関東近県の高等学校を拠点校として協定を結び、「連携型教育」を進めることにした。

平成23年4月現在、本学近隣の都県における協定校は65校に及んでおり、その内訳は茨城県12校、栃木県4校、群馬県7校、埼玉県12校、千葉県9校、東京都14、長野県3校、福島県3校、新潟県1校となっている。

なお、これから協定を結びたいと希望する高校もあり、今後適宜調印をしていく計画である。

本学の教員が、高等学校等へ赴き授業を行う「出前授業」の題目は、約100テーマにのぼり、冊子「出前授業プログラム」として全国の工業高校及び関東近県の普通高校に送付している。

4月早々、「出前授業」が始まるとともに、依頼申し込みがプロジェクト室に届いている。

この出前授業以外に、1)大学または高等学校における実験・実習、2)大学または高等学校におけるものづくり体験学習、3)大学における研究室インターンシップ、なども高大連携の取り組みとして実施している。

出前授業並びに研究室インターンシップを併せると、年間100件に及び、高等学校側は日本工業大学との連携に大きな期待と関心を持っている。大学は、高等学校側の思いを真摯に受け止め、これからも実のある高大連携を構築していくことが重要であると考えている。

(工業教育研究所 高大連携プロジェクト室)

受講生募集

教員免許状更新講習

1,000人を超える現職教員を輩出している本学は、教員養成機関としての社会的責任を果たすとともにOB教員の要望に応えるため、本年度も8月1日(月)から5日(金)まで、教員免許状更新講習を開講する(必修講習と選択講習の両領域)。受講対象は昭和31年4月2日～33年4月1日、昭和41年4月2日～43年4月1日、昭和51年4月2日～53年4月1日生まれの現職教員で、申し込みの締め切りは6月15日(水)である。詳細はホームページで確認されたい。また、お問い合わせは教職教育センター(Tel.0480-33-7737)まで

【選択講習の内容】バイオマスと環境技術、モデル化とシミュレーション、最新のナノテク技術、高齢者のための居住環境計画・原論、製品の設計とデザイン手法、コンピュータ制御の現状と今後

専修免許取得の公開講座

中学校、高等学校の現職教員を対象に専修免許(工業または技術)を取得するための免許法認定公開講座を7月27日(水)から開講する。科目は大学院機械工学専攻の「応用設計特論」(有賀教授ほか5人担当)と建築学専攻の「建築空間の構成システム」(足立准教授)である。要項は大学ホームページより入手可、詳細は生涯学習センターまで。<http://www.nit.ac.jp/center/cooperation/life.html>

学生記者募集中!!

メルマガ記事、学内撮影等。ヤル気のある方求む! 詳細は総務部広報室まで。

人事異動

【任命】

(4月1日付)

◆大学院技術経営研究科副研究科長 山岡斉教授
◆大学院技術経営研究科副研究科長 宇野永紘教授
◆大学院技術経営研究科教授委員 宇野永紘教授
◆技術研究系総括センター長兼担 三宅正二郎教授
◆総合研究センター長兼担 三宅正二郎教授

◆生涯学習センター長 船橋昭一元教授
◆財務部長補佐・経理課長 兼務 倉島清隆
◆学生支援部参与 大西毅
◆用度・管財課長 磯雄二
◆就職支援課長 初見範子
◆施設環境管理課長心得 原渡
◆LCセンター事務課主事 松本勇一郎
◆【配置換】(4月1日)
◆菅原有香子総務課員↓用度・管財課
◆塩入修総務課員↓就職支援課

◆【解任】(3月31日)
◆就職支援課兼務 吉見健二学生支援課長
◆鈴木清教授(ものづくり環境学科)／出張先IIアマリカ(5/5/15/5/8)
／ダイヤモンド新技術国際会議での論文発表および研究調査・視察

国外出張

◆鈴木清教授(ものづくり環境学科)／出張先IIアマリカ(5/5/15/5/8)
／ダイヤモンド新技術国際会議での論文発表および研究調査・視察

◆二ノ宮進一准教授(機械工学科)／出張先IIアマリカ(5/5/15/5/8)
／ダイヤモンド新技術国際会議での論文発表および研究調査・視察

◆神林靖准教授(情報工学科)／出張先IIイギリス(6/27/7/3)／目的IIエーセントとマルチエーセント国際会議にて論文発表

◆産学連携起業教育センター長兼担 村川正夫教授
◆工業教育研究所長 原田昭教授
◆教職教育センター長兼担 原田昭教授
◆工業技術博物館長 松野建一客員教授

◆先端材料技術研究センター長兼担 三宅正二郎教授
◆環境化学ラボ所長兼担 小野雄策教授
◆スチューデントラボ所長兼担 上野貴博准教授
◆インテリアデザインラボ所長兼担 津澤高行教授
◆建築技術センター長兼担 川村清志教授
◆超高電圧研究センター長 西村誠介教授
◆フラインプランキングセンター長兼担 村川正夫教授